

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学  
経営協議会（平成25年度第2回）議事要旨

1. 日時 平成25年11月21日（木）13:58～15:55
2. 場所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 小笠原議長  
片岡、横矢、高比良、太田、北出の各学内委員  
志村、宮寫、CASSIM、矢嶋の各学外委員  
欠席者 石井、井上、小出、佐々木の各学外委員  
出席監事 二宮監事  
陪席者 尾原教育研究支援部長  
奥田、竹下、井上、森川、常盤、樋口、末廣の各課長
4. 配付資料  
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成25年度第1回）議事要旨（案）  
資料2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員給与規程の一部改正について  
資料3 平成25年度収入・支出予算（案）（補正予算）  
資料4 本学の主な動きについて（平成25年6月25日～平成25年11月20日）  
資料5-1 奈良先端科学技術大学院大学の工学分野のミッション  
資料5-2 奈良先端科学技術大学院大学の理学分野のミッション  
資料6-1 平成26年度予算の概算要求における運営費交付金の状況  
資料6-2 平成26年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について  
資料7 平成24事業年度財務諸表の承認について（通知）  
資料8-1 電力契約の主な変更点について  
資料8-2 奈良先端大電気料金比較表（4月～10月）  
資料8-3 平成25年度冬期節電について（案）  
資料9 公務員の給与改定に関する取扱いについて  
資料10-1 平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果について  
資料10-2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果  
資料10-3 国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況  
資料11 課題創出連携研究事業について  
資料12 平成25年度外部資金の受入れについて  
資料13 奈良先端大キャッチコピーの決定について  
資料14-1 研究大学強化促進事業  
資料14-2 研究大学強化促進費  
資料14-3 平成25年度研究大学強化促進事業におけるヒアリング対象機関選定のための指標の結果  
資料14-4 本学の強みと更に強化すべき課題  
資料14-5 奈良先端大研究力強化システム改革  
資料14-6 本事業による研究力強化に係る数値目標  
机上資料 財務報告書

- 参考資料 「奈良先端大東京フォーラム2013」朝日新聞2013年11月9日  
(土) (夕刊)
- 参考資料 奈良先端大の概要と特色

## 5. 議 事

(前回議事要旨の確認)

資料1の前回(平成25年度第1回)の議事要旨(案)について、原案どおり承認された。

(審議事項)

- (1) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員給与規程の一部改正について  
高比良委員から、資料2に基づき、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員給与規程の一部改正について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。
- (2) 平成25年度補正予算の編成について  
高比良委員から、資料3に基づき、平成25年度補正予算の編成について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(報告事項)

- (1) 本学の主な動きについて(平成25年6月25日～平成25年11月20日)  
議長から、資料4に基づき、平成25年6月25日～平成25年11月20日までの本学の活動状況等について報告が行われた。
- (2) 奈良先端科学技術大学院大学の工学分野及び理学分野のミッションの策定について  
議長から、資料5-1～2に基づき、本学の工学分野及び理学分野のミッションを策定したことについて報告が行われた。

(主な意見は、次のとおり)

- ・奈良先端大が掲げるミッションとして、その特徴が容易にイメージ出来るものとする必要がある。
- ・頭脳循環は、産業界の人材や教師のリカレントに非常に有意義なので、従来の大学教育の中ではできないことを奈良先端大が先頭を切って行っていくことが望ましい。また、大学卒業後だけでなく、学部教育以前においても頭脳循環の仕組みを取り入れることも必要である。
- ・これからの科学技術や経済活動等は、今までの単純な前進モデルでは限界に達しており、社会に出て再び大学に戻ってくるという循環のスキームを考える必要がある。高度化していく社会に対応できる博士人材・修士人材を教育・輩出するプログラムを大学が用意することで、人材育成の方向性を示していく必要がある。
- ・社会人の学び直しを推進する上で、企業においても研究者が進んで学び直しできるように、研究派遣先からの帰還時のポストを用意する等、研究者が安心して学ぶことができる環境を整備していく必要がある。

- (3) 平成26年度概算要求の状況について

高比良委員から、資料6-1～2に基づき、平成26年度概算要求の状況について報告が行われた。

- (4) 平成24事業年度財務諸表の承認について  
高比良委員から、資料7に基づき、平成24事業年度財務諸表の承認について報告が行われた。
- (5) 平成24年度財務報告書について  
高比良委員から、机上資料に基づき、平成24年度財務報告書について報告が行われた。
- (主な意見は、次のとおり)
- ・同種の大学と比較し、分析することで、大学の弱点が判明するが、それに対処することで大学経営を健全化することができる。
  - ・比較の方法・対象等によって違った分析結果が出てくるため、比較する視点等を工夫しなければならない。
- (6) 電力の契約機関の変更と本学の節電対策について  
高比良委員から、資料8-1~3に基づき、電力の契約機関の変更と本学の節電対策について報告が行われた。
- (主な意見は、次のとおり)
- ・次回以降の契約については、今後の原子力発電の稼働状況や契約機関の安全性等を踏まえて、契約機関を検討する必要がある。
- (7) 公務員の給与改定に関する取扱いについて  
高比良委員から、資料9に基づき、公務員の給与改定に関する取扱いについて報告が行われた。
- (主な意見は、次のとおり)
- ・本学の教育・研究は、大学院大学として高度化していることから、少しでも職員のインセンティブになる方策を考えなければならない。
  - ・単純に民間企業と給与だけで比較し、給与を下げるべきではなく、住宅等の福利厚生面において比較しても差があることから、福利厚生面での削減が行われる場合には、その点についても検討すべきである。
- (8) 平成24年度に係る業務の実績に関する評価の結果について  
横矢委員から、資料10-1~3に基づき、国立大学法人評価委員会による平成24年度に係る業務の実績に関する評価の結果について報告が行われた。
- (9) 課題創出連携研究事業について  
横矢委員から、資料11に基づき、平成25年11月1日からヤンマー株式会社と実施する課題創出連携研究事業について報告が行われた。
- (10) 平成25年度外部資金の受入れについて  
横矢委員から、資料12に基づき、平成25年度外部資金の受入れについて報告が行われた。

(1 1) 奈良先端大キャッチコピーの決定について

横矢委員から、資料13に基づき、学内公募及び選考を経て、奈良先端大キャッチコピーを「無限の可能性、ここが最先端 -Outgrow your limits-」に決定したことについて、報告が行われた。

(1 2) 研究大学強化促進事業について

横矢委員から、資料14-1~6に基づき、平成25年度「研究大学強化促進事業」の支援対象機関として選定されたことについて報告が行われた。

(情報交換・意見交換)

小笠原議長から、資料5-1~2及び14-1~6に基づき、ミッション再定義及び研究大学強化促進事業について、意見交換及び情報交換が行われた。

(主な意見は、次のとおり)

- ・ 本事業の支援対象機関の選定には、科研費の研究者当たりの採択数等、大学の規模に関わらない指標が用いられており、本学が支援対象機関として選定されたことは、小規模大学でも研究力が強い大学が存在することを証明するものとして意義がある。
- ・ 研究力評価指標のひとつである国際共著論文の割合は、トムソン・ロイター社のWeb of Science データベースのデータを基に算出されているが、日本の国際競争力や研究力の向上には、日本独自の研究評価システムを構築し、それに基づいて評価できるようにすることが重要な課題である。
- ・ 国際共著論文の割合が指標とされているが、第一線で研究している研究者にとっては、外国の研究者はライバルであって、共著する余裕はないはずであり、その意味で研究力を評価する指標として不十分な側面もある。
- ・ 企業において新たな事業を開始する際には、製品や部品等を標準化する必要があるが、日本では標準化に関わる人材が少なく、国際標準化を日本企業が主導的に行うことは非常に困難である。このようなプレゼンテーションや議論の場において、十分に議論できる人材を養成することが必要だと感じている。
- ・ URA がどのような職種であるのかを明確に示し、それにふさわしい業務を与え、また、URA のキャリア支援をどのように行うか、今後考えて行く必要がある。

以 上